

OGINOURA

# 荻浦の文化財

前原市荻浦地区土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財包蔵地発掘調査の速報 3

1994年3月

前原市教育委員会

# I. はじめに

平成3年度にはじまった荻浦地区土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財包蔵地の発掘調査は、一部を残して平成5年の9月に一応終了しました。

この2年間をふりかえてみますと、A-1工区の市園遺跡の調査から始まり、大浦前田古墳、方格規矩鏡が出土した立石古墳群、奈良時代の蔵骨器があった立石墳墓群、馬具や国産の鏡である櫛目文鏡が出土した坂の下祭祀遺跡、立派な横穴式石室と豊富な副葬品をもっていた坂の下古墳群、また古墳時代から中世にかけて営まれた集落跡や、昔の人の足跡が当時のまま無数に残っていた水田跡の調査など、縄文時代から近世にかけての様々な遺跡を調査してきました。当初の予想とは大きく異なり、貴重な遺跡、遺物が続々と発見され、その調査を行っていくにつれて、遠い昔に荻浦一帯で人々が営んでいた生活の跡が、私たちの目の前に次々と現れてきました。

現在、これら調査の成果をまとめた報告書の作成にむけて、今年度調査を行なったC-6工区の砂魚塚古墳やE-2工区の石川1号墳から出土した遺物をはじめとして、おびただしい数にのぼる土器片など遺物の整理作業を行なっているところです。

今年度も足場の悪い斜面や水浸しの石室内での調査にも頑張って作業に従事して下さった作業員の皆さんほんとうにお疲れ様でした。

## 調査員

前原市教育委員会 文化課 文化財係 岡部裕俊 瓜生秀文 野田純子

## 調査作業員

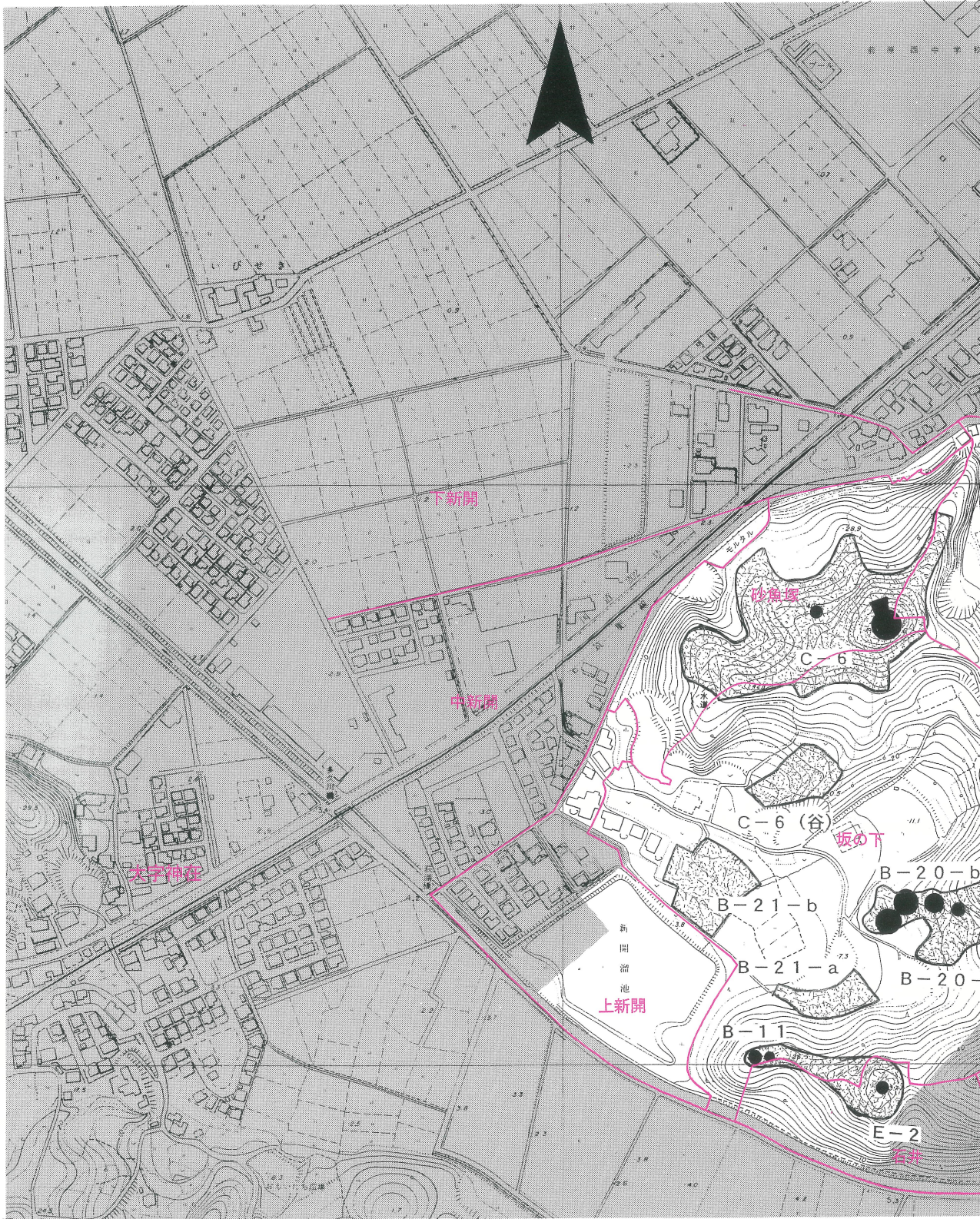
原口マツノ 加布里タズ子 行弘カツ子 中原マチ子 川上豊子 谷山セツ子 藤木和子  
有富つたえ 東司テル子 井上カツ子 塩田純子 高田とよみ 大谷ナヲ子 川上モモエ  
森山シゲミ 川上ハルエ 友岡チェ子 溝口ヨシノ 稲原美佐江 坂本悦子 稲原フジエ  
中庭ヨモト 瀬戸キヨ子 杉本美知子 山口シズカ 藤川賀代子 藤井千恵子 木地純子  
柴崎末子 竹原ヒトミ 篠原明子 川西安子 井上正英 吉村光子 中田朋子 黒田秀子  
田中キヌ子 佐々倉美智子 重富千恵子 松田恵美子 市丸千賀子

## 整理作業員

末松伸子 島影やよい 豊樹美智子 高橋久枝 川上辰子 山口敏子 砥上友紀

平成5年度の発掘調査概要

工区番号		C-6 地点	E-2 地点	B-11 地点	
遺跡名		砂魚塚古墳	石川1号墳	石川2号墳	石川3号墳
築造時期		6世紀中頃	5世紀末	4世紀?	4世紀
立地		山頂	山頂	尾根先端部	尾根先端部
規模		全長24m、前方部幅10m、後円部径18mの前方後円墳	東西8m、南北10mの方墳	径5.5mの円墳	東西8m、南北9mの方墳
主体部	構造	横穴式石室	横穴式石室	箱式石棺	組合式木棺
	主軸方位	N-6°-W	N-5°-E	N-79°-E	N-81°-E
副葬品	土器	須恵器 土師器	須恵器 土師器		
	武器	鉄鏃、大刀	鉄鏃、大刀		剣
	馬具	雲珠金具			
	農・工具	鋤先			刀子、 <sup>やりがんな</sup> 鉋
装身具	金環、銀環、ガラス勾玉、滑石勾玉、メノウ勾玉、水晶勾玉、ガラス小玉、碧玉管玉、水晶切子玉	ガラス小玉、碧玉管玉、銀環			
備考		石室天井石崩落。装身具は三体分あった。	天井石・側壁の大半は破壊。	側壁一部と床石のみ残存。	周濠内より土師器出土。





地籍と地区割 (1/5,000)

## II. 調査の内容

### 1. 平成5年度の調査の概要

平成5年度はC-6工区（砂魚塚古墳）、E-2工区・B-11工区（石川地区）の調査を行いました。この2つの地区は、奈良時代の集落遺跡があったC-6（谷）工区、B-21-a工区、水田遺跡があったB-21-b工区を囲むようにのびた2つの丘陵上にあります。

砂魚塚古墳は平成4年度に引き続いて調査を行いました。この古墳は糸島地方で発掘調査によって確認できる数少ない前方後円墳として重要視していたので、その成果に大きな期待をもって調査にあたりました。

E-2工区は、横穴式石室をもつ古墳が存在することがわかっていたので、発掘調査を行なうことにしていましたが、B-11工区は試掘調査を行なう予定でした。ところが伐開して表土を除いたところ、周辺から土器片が出土し、多数の河原石の散乱がみられることなどから発掘調査を実施することになりました。

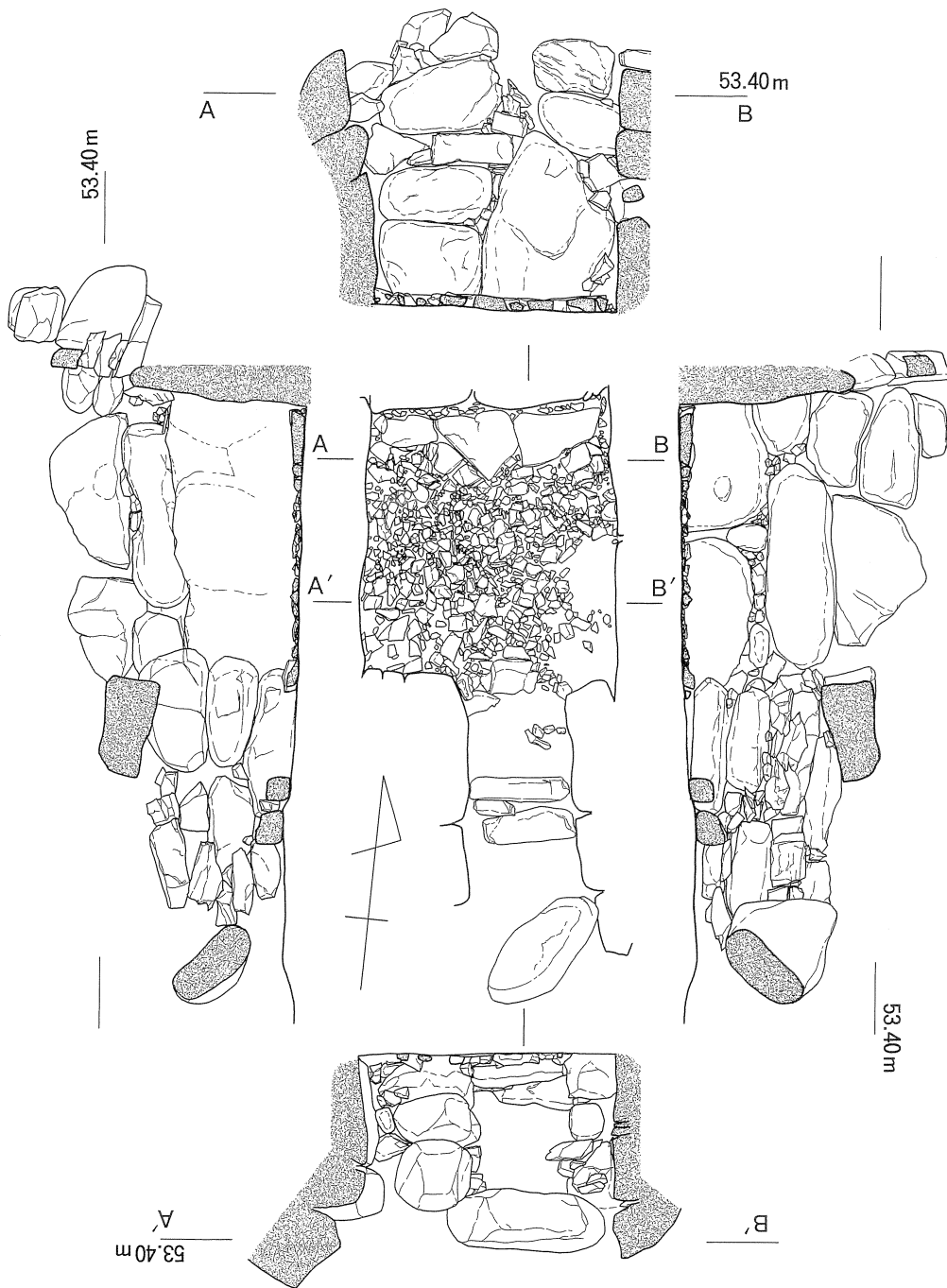
### 2. C-6工区の調査 — 砂魚塚古墳 —

C-6工区の最高所に位置するこの古墳は全長24m、前方部幅10m、後円部径18mの前方後円墳です。埋葬主体部は横穴式石室で、石室内からはガラスや滑石、メノウ、水晶などで作られた勾玉や、碧玉製管玉、ガラス製小玉、水晶製切子玉、金環、銀環などの装身具類、鉄製の大刀、鏃などの武器、馬具の飾り金具などが出土しました。装身具類は埋葬された人が身につけていたままの状態出土し、時を異にして三人が葬られたことがうかがえます。

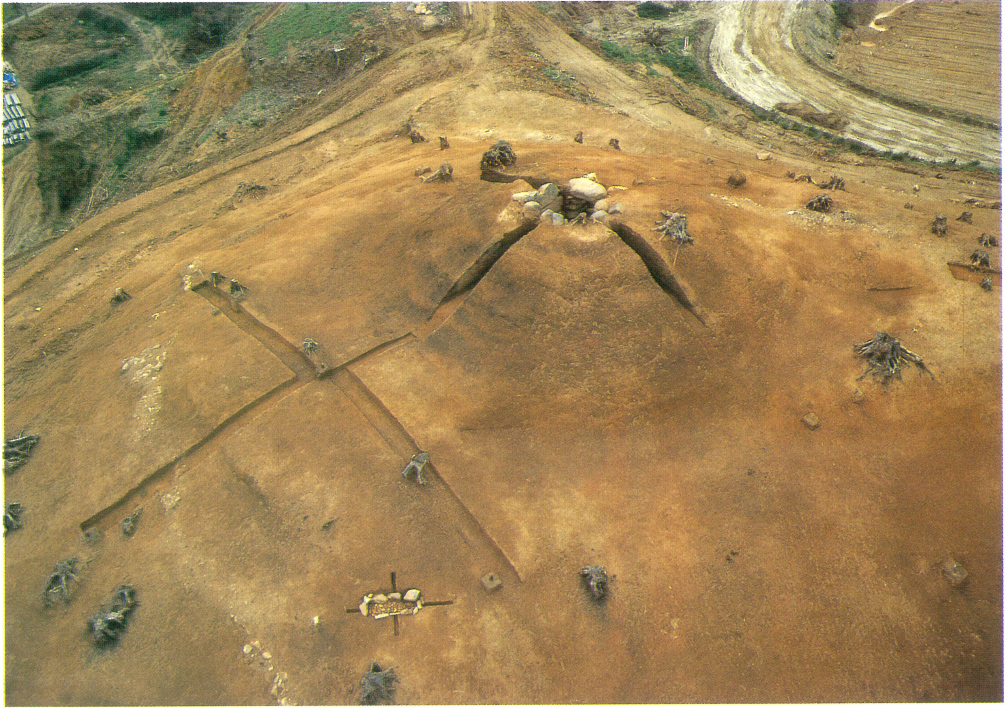
石室入口付近と墳丘のくびれ部分から集中して土器が出土しました。そこでは亡くなった人の魂を鎮めるために供物などが捧げられ、祭事が行なわれたのでしょうか。またそれらの土器とともに勾玉の原材料ではないかと思われる碧玉の原石が出土しています。この石は九州産のものではなく、遠く出雲地方から運ばれてきたものである可能性があります。砂魚塚古墳は、海を渡って交易を営んでいた人々を治めていた豪族の墓ではないかと考えられます。



供献された土器と勾玉の原石



砂魚塚古墳石室実測図 (1/60)



空から見た砂魚塚古墳



石室遺物出土状況 三人分の首飾りが見える





供献された土器



復元された土器



首飾り出土状況



左を糸でつないで復元したもの



馬具 (雲珠金具)



鋤 先

### 3. E-2工区 ー石川1号墳ー

石川地区は事業地内の最も南辺にある丘陵で、砂魚塚古墳が築かれた丘陵と間に谷をはさんで対峙しています。

石川1号墳は丘陵の頂上に築かれており、東西長8m、南北長10m、高さ2.4mを測る方墳でした。また墳丘の東側には尾根を横切る幅2m、深さ0.5mの空濠が掘られていました。

埋葬主体部は横穴式石室で、天井石はすでに持ち出され、側壁に用いられていた石のみが残っていました。石室内は盗掘をうけていましたが、碧玉製管玉、ガラス製小玉、鉄鏃、鉄製大刀などが出土しました。石室の入口付近から多数の土器がまとまって出土したことから、やはり被葬者の魂を鎮めるために、供物を捧げて祭事を行なったことがうかがえます。出土した土器からこの古墳の築造時期は5世紀末ごろと考えられます。

また、この古墳からは動物の皮で作った袋をまねた皮袋形土器と呼ばれる珍しい土器が出土しています。糸島地方では他にもう1例出土しているのですが、残念ながらどこから出土したのかはわかっていません。



石川地区全景



石川 1 号墳



墳丘に供えられた土器群



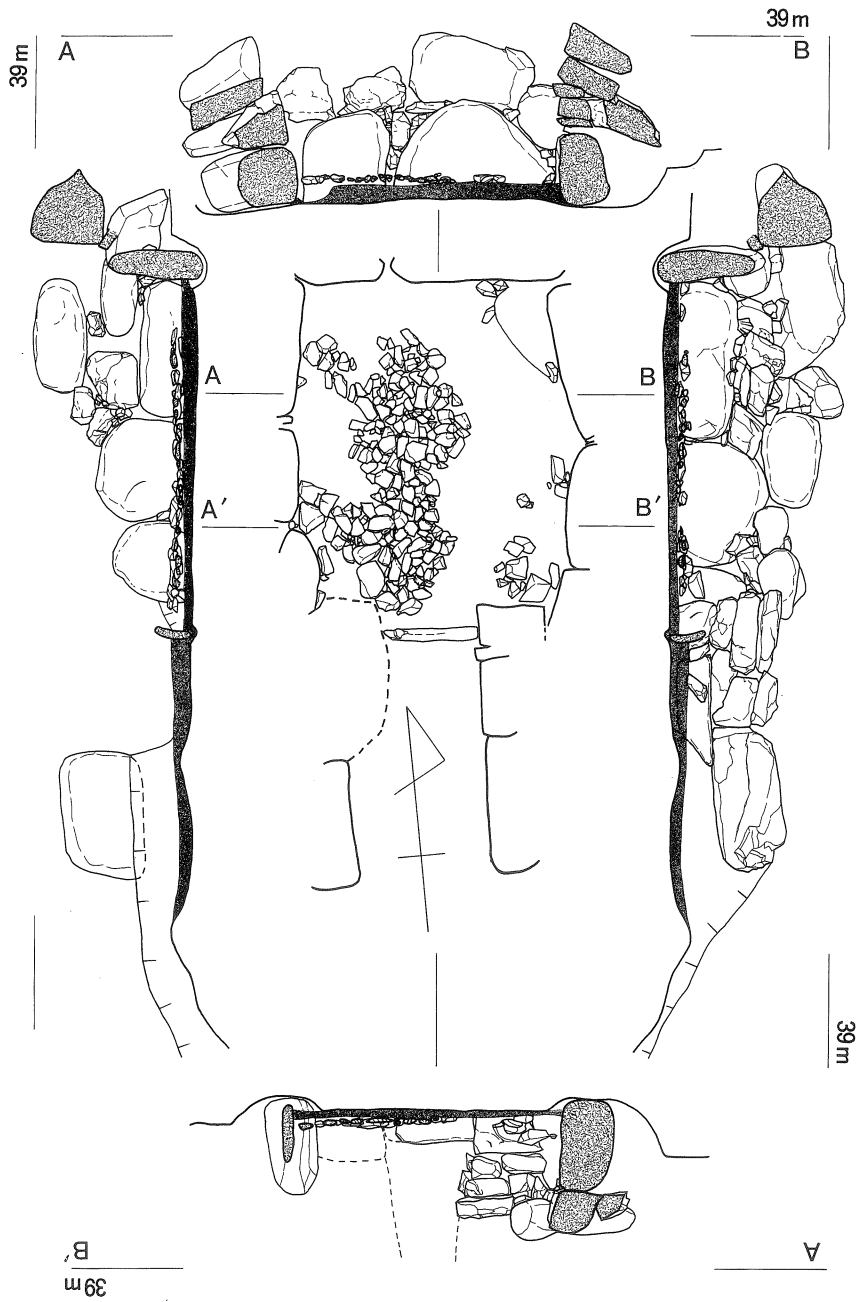
同 左



皮袋形土器出土状況



高さ10cmにも満たない小さな土器もありました



石川1号墳石室実測図 (1/60)

#### 4. B-11工区 ー石川2号墳・3号墳ー

石川2号墳、3号墳は1号墳のある丘陵から西方へのびる尾根上から発見されました。

両方とも墳丘の盛土はほとんど削られてなくなっていました。辛うじて残っている周濠の跡から、2号墳は円墳、3号墳は方墳であったと考えられます。

2号墳は主体部は箱式石棺ですが、すでに削られて大半が崩れており、床石と側壁として用いられた板石の一部が残っていました。棺の床面の長さは1.6m、幅は0.25~0.3m、深さは0.15mでした。副葬品などの遺物は見つかりませんでした。

3号墳の主体部は、木製の短い板が長い板をはさむ形の組合せ式の箱式木棺で、木棺は残っていませんでしたが、その痕跡を検出することができました。木棺は全長1.9m、幅0.5~0.6m、深さ0.2mを測りました。蓋と棺の合わせ目は粘土で目張りされ、その粘土のなかには、片側に鉄製のナイフが1本、反対側に鉄製の剣とやりがんな鉈が2本一緒に差し込まれていました。

3号墳の周濠の中から高杯と壺の破片が出土しました。これらの土器の形などから、3号墳が造られたのは4世紀ごろではないかと考えられます。



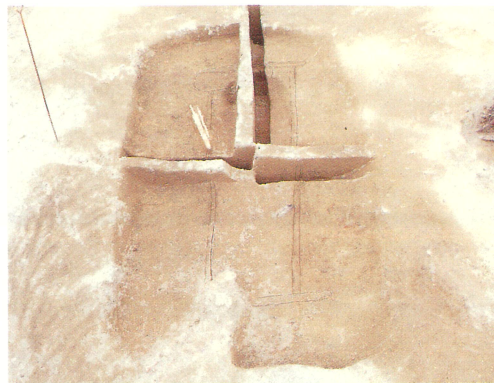
尾根上に造られた石川2号墳・3号墳



石川2号墳



石川3号墳



石川3号墳 剣・鉈出土状況



菟浦丘陵より糸島平野を臨む

### Ⅲ. おわりに

約2年間にわたる発掘調査で、荻浦の丘陵地  
一帯から多くの埋蔵文化財が発見されました。

それらのなかには砂魚塚古墳のように立派な  
墳丘や石室、見事な副葬品をもつ貴重なものも  
ありました。しかしこれら文化財の多くは発掘  
調査が終了した後は姿を消していく運命にあ  
ります。

このまま失われてしまう文化財をせめて記録  
に残し、かけがえのない文化遺産として後世に  
伝えていこうと調査を行なってきましたが、貴  
重な資料がその姿を消してしまう前に、市民の  
皆さんにも見ていただこうと、昨年度に引き続  
いて今年度も5月15日に現地説明会を開催いた  
しました。五月晴れの青空のもと、砂魚塚古墳  
の墳丘上に多くの見学者が訪れ、係員の説明に  
熱心に耳を傾ける姿がみられました。

また、荻浦地区の歴史を考えていくうえで、  
重要と思われる遺跡がこのまま消滅してし  
まうのは残念だという声もあがり、ただ記録に  
留めておくだけでなく、遺跡を保存して永く  
活用していこうと、将来事業地内に復元しよう  
という話になりました。そのため調査が終了し  
た後、石室を解体して石材を搬出し、別の場所  
に保管する作業を行ないました。

最後になりましたが、荻浦土地区画整理組合  
の皆さん、工事関係諸機関の皆さんには貴重な  
文化財の保護、調査活動にご理解をいただき、  
工事工程の調整のみならず、多方面にわたって  
ご尽力、ご協力を賜りました。末尾ではあり  
ますがここに記して感謝の意を表します。



現地説明会の様子



出土遺物を見て、その技術の高さに  
感心する市民



遺跡移築復元のための石材搬出作業



皮袋形土器 手前：糸島高校所蔵品  
奥：石川1号墳出土

発行 前原市教育委員会  
福岡県前原市大字前原 623  
電話 092 (323) 1111

印刷 (有) 松古堂印刷  
福岡市西区周船寺1丁目7-64  
電話 092 (806) 1661